

第4回 双葉町復興推進委員会 議事概要

■日 時：平成26年1月17日(金) 午後1時00分～4時30分

■場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者：別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会

2. 町長あいさつ

3. 議 事

- (1) 世代別会議、インターネット掲示板、住民意向調査の町民意見結果について（報告）

資料2、3、4に基づき、事務局より報告。

- (2) 事業計画に盛り込む事業の素案について

資料5、6に基づき、事務局より説明後、質疑。

委員の主な意見は以下のとおり。

- 県単位でもよいが、双葉の人たちがどの辺にいる、という地域の名簿のような情報は出すことができないか。情報が流用して悪用されるという問題もあり、電話帳や住所録等はまだ作る必要は無い。
- 広報で、自治会の活動等を掲載し、町としてバックアップする事を住民に知らせれば、安心して住民が自治会に連絡をくれる。そういう事を町の方で積極的に推進してほしい。
- そもそも「自治会とは何か」というところから始める必要がある。自治会をしっかりと組織立てしなければならない。
- 町と（避難先の）市や県との連携がうまくとれていない。どこに相談しても情報の共有が図れる連絡体制が必要である。
- 地域住民との交流については理想ではあるが、住民もいろいろな人がおり、トラブルも発生したので、今は積極的には誘っていない。
- 自治会に参加できる人は何ら問題ない。参加できない人をどのように参加させるかが問題である。
- イベントでバスを出しても行き来に時間がかかりすぎるので、特に高齢者がやむなく参加を断念した、ということがあった。
- 自治会のイベントで案内を出さずに実施したところ地域住民から苦情が来た。その後、こちらからお知らせを予め出したところ、苦情が来なくなったため、先んじて情報発信することが重要である。仮設住宅で避難先住民と一緒に開催した餅つきイベントは、避難先の市長も参加して好評であったため、今後も別のイベントを企画している。

- 今年のダルマ市で去年の参加者が今年は参加していないケースが見られた。理由として遠方に住んでおりバスがあっても来にくい、同じ日に重複してイベントが行われたことが考えられる。震災後のイベントは、開催地の自治会内では交流が深められるが、町全体としては難しいため今後の課題である。
- イベントの募集人数が少ない場合でも、サイズを小さくしてでも車を出すなどの工夫をすれば、以前の知り合いとの交流も可能である。
- 毎回同じ人しかイベントに参加しない事を避けるために、どのように町民を参加させるかを検討すべきである。
- たとえ交流拠点をつくったとしても、そこに行くまでの交通手段がなければ参加する人は限られるのではないかな。
- イベント時の足の確保について、声掛けを行い車に乗せてもらうなどの協力が必要である。また、既存のバス等の交通機関を利用する方が、あらためて始めるより事が進む。
- いわき市では集まる場所探しから始めないといけない。場所の確保をお願いしたい。
- 自治会を活発にして交流を持ちたいという話があり、社協に名簿を出してくれないか、と依頼があったが、個人情報の観点から断った。どこに住んでいるか知りたいという意見があってもどの程度実現できるのか。
- 広報ふたばに同窓会情報や私的なサークル情報などを積極的に掲載することで、町民の取組がわかるので、検討したらどうか。
- 災害の記録を町民がいつでも確認でき、都度追加できる方法で残す事は重要である。今後何かあった時に、後世のためにも災害の記録や住民の対応の記録が、非常に参考になる。
- 簡単な情報端末であれば高齢者に丁寧に教えると使うことができる。SNSなども双葉町のグループを作り活用することが考えられる。新しいものを導入し、一年中つながる事が必要である。
- この辺りまで津波が来た、という記録の碑を、後世の人たちのために残してほしい。
- 計画を作ることが目的ではなく、それを実施する事が目的である。役場で全部できるのか。提言内容の順位付けが必要である。そうでないと、「絵に描いた餅」になる。
- 私たちは双葉町民であるという「自分たちの根っこ」を持っている事が必要である。例えば子どもたちでも読める、伝えていけるような冊子(双葉町読本)をぜひ作ってほしい。
- 高齢者から子供達に伝統・文化を伝承するために、教える側の大人が学

校に多く来て、学校の熱心な取り組み等を多く見てもらい、学校の魅力を発信していけたらよい。その1つの柱に文化の伝承を位置づけるのは良い。

- 双葉町の郷土料理のレシピ集を作る話もある。
- 住民が安心して暮らせる方向になっている。今後もさらに良い方向に向かうと思う。町はそれに応えてくれると考える。
- 阪神・淡路大震災では、老人の一人暮らしによる孤独死で、いつ亡くなったか分からないケースが多く見られた。復興住宅ができるまでの間に、何らかの対策が必要だ。
- 町外拠点に関する県や国の考え方と町民の考え方のスピード感が全く違う。具体的に国や県がどのように考えているのかを知りたい。計画書はスピード感が求められる。
- いわき市南部の町外拠点で、低コストの分譲地を要望したい。
- 避難先住民が一度町外拠点に戻り、計画を立ててから帰還するという、町外拠点の位置づけが考えられる。
- 地元の自治体との共存が重要である。支援バスの料金は被災者からも徴収すべきであるが、料金だけではバス運営を維持することはできないため、町が補助をすべきである。生活するために被災者もコストがかかることに慣れる必要がある。
- 復興公営住宅の間取りが画一的になると、入居者も画一的になるため、なるべく多様な間取りを入れる必要がある。また、自立再建者へも相談窓口を作り積極的に支援する姿勢をアピールすることが町として重要である。
- いわき市だけではなく、例えば双葉郡広野町、檜葉町にも広大な土地があるため、その広大な土地を利用して、町外のコミュニティ、分譲地を募集したらどうか。
- 借上げ住宅の今後の見通しが知りたい。
- 県外の借上げ住宅の引越し（借り換え）を認めてほしいという要望を出したが、どのような状況か。
- 医療費の無料化と高速道路の無料化は継続されるのか。
- 被災者生活再建支援法で、全壊世帯の場合、津波で300万円が支給されている。この300万円の支給の要望は、必ず出して欲しい。資産の賠償が低いのでそれを足しにしたい。
- 特別養護老人ホームの事業再開について進捗状況を教えてほしい。また、住民意向調査の中の特別養護老人ホーム「せんだん」の再開時の利用意向について、結果を教えてほしい。

- 特別養護老人ホームの事業再開については、最優先の課題として取り組んでほしい。高齢者には時間がない。
- 町民健康診断と乳がん検診について、他町村では仮設住宅の敷地内に健診の施設があったりバスが迎えに来たりするが、双葉町は遠方に行く必要がある。なぜこのような差があるのか。担当課は他町村の状況がどうなっているかを確認してほしい。
- 一人で暮らせない高齢者には、相談があった時はサービス付高齢者住宅を紹介している。しかし、最近では特養や介護保険、老健施設でも他の避難者も利用希望者が増え、全国的な傾向でもあるが入居が難しくなっている。また、サービス付高齢者住宅は介護が重度になると専門職員がいなかったため出て行かなくてはならない。ただ単に高齢者住宅を作れば解決できる問題ではないため、現場でも悩んでいる。
- 「絆づくり応援事業」で、各集会所に復興支援員が二人ないし三人配置されているが、4月以降はどうなるのか。
- 今回の震災記録ということで、子ども達の記憶の薄れないうちに記録をつくっておくのも良い。
- 双葉町の教育ビジョンや教育長の思いをホームページで拝見して、再開する町立学校は本当に魅力ある学校だと思っている。しかし、子供が避難先の学校に馴染んでしまい、通うことができないため残念な思いが強くある。そこで、双葉町の勉強会への足の確保や双葉町の学校に通っていない子供も町立学校の行事に参加できる機会をつくってほしい。
- 一つでも何か目に見えて、できるものを一日でも早く取り組んでほしい。中でもタブレット端末の導入について検討状況を聞きたい。
- 教育関連の提言について、全体をうまく包括しているような書き方・並び方にしたい。
- 双葉町の名産品の復活支援について、双葉町で作っていたものを、今ここで作るのは無理がある。
- 浜野地区と両竹地区の津波被災地域復興小委員会の中で、津波被災地域の跡地問題ということで太陽光発電の話があったが、そればかりでなく、エネルギーの研究所や、研究学園も作って欲しい。何年後になるか分からないが、夢も必要である。
- 「ゆるキャラ」作りを町でやったらいい。
- 「せんだんカフェ広場」を、なんとか町で運営してもらえないか。
- 緊急にやらなくてはならないのは、いろいろなところへのアピールである。

以上

第4回双葉町復興推進委員会座席表

(敬称略)

駒田 義誌	事務局 (復興推進課)	町長 伊澤 史朗	齊藤 六郎	
山本 一弥		副町長 半澤 浩司	菅本 洋	
鈴木 健一		教育長 半谷 淳	岩元 善一	
相楽 定徳	事務局 (復興推進課)	総務課長 武内 裕美	大橋 正子	
橋本 靖治		秘書広報課長 平岩 邦弘	田中 勝弘	
西牧 孝幸		税務課長 船来 丈夫		
伊藤 壽紹	事務局	産業建設課長 大橋 利一	横山 敦子	
橋本 憲一		住民生活課長 渡邊 勇	岡村 隆夫	
(財)電源地域振興センター 客員研究員 中村 元則			小畑 明美	
(財)電源地域振興センター	事務局	生活支援課長 志賀 睦	中谷 博子	
(株)アルテップ		健康福祉課長 大住 宗重	松本 浩一	
(財)ふくしま市町村支援機構		教育総務課長 今泉 祐一	山本 真理子	

高野	間野	伊藤
陽子	博	哲雄

- 1 日時 平成26年1月17日(金)
13:00~16:30
- 2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室

芥川 一則	復興庁 石川 悟 参事官補佐
大月 敏雄	
長林 久夫	
岩本 千夏	復興庁 福島復興局 高橋 直人 次長
相楽 比呂紀	復興庁 福島復興局 須田 亨 参事官補佐
石田 恵美	福島復興局 いわき支所 芳賀 克男 所長
小川 貴永	福島復興局 いわき支所 鈴木 誠 次長
谷 充	
川原 光義	福島県 生活拠点課 渡邊 隆幸 主任主査
高田 秀文	福島県 避難地域復興課 駐在員 熊坂 雅彦 副課長